

令和6年度 いのちの授業 事例集（特別支援学校）【理科】

掲載数

10

管轄	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中 1	理科	ノラボウナを植えよう	ノラボウナの育ち方について紙芝居を見て学んだ。ノラボウナの種を実際に観察してから、畑に種を植えた。9月から水やりを定期的に行い、成長を見守った。収穫の時期（2～3月）になったらどのような調理をしたいか考える。収穫後は、考えた調理方法でノラボウナを調理し、食べて命の大切さを学ぶ。	
2 川崎市	中 1	理科	花の球根を植えよう	苗や種から育つ野菜などを育てた経験をもとにチューリップの球根を植えた。球根は種とは違い植える向きがあることを知った。また、チューリップは卒業や入学の時期に花が咲くので現3年生や新入生のためにきれいな花を咲かせたいという気持ちで水やりなどを日々行う姿が見られた。	
3 神奈川県	中 1	理科	野菜の栽培と収穫	夏野菜の栽培や収穫を行った。種や苗を植える際に、大切に扱うことを意識してやさしく触察したり、香りを確かめたりした。成長の様子を観察する際には、苗の背丈がどれくらいになったか、自分のからだの部位を使って大きさ（「手の平くらい」や「自分の胸くらいの丈」等）や、葉の枚数を数えしたりして発表することで、植物の成長に驚いたり喜んだりする様子が見られた。収穫が近づくと、野菜に苦手意識のある生徒も、料理名を挙げて食べることを楽しみにしたり、給食に対する意欲が高まったりした。その結果、これまで食べられなかったピーマンが大好きになったり、口にできる野菜の幅が広がったりした。	複合学年 中1・中3
4 神奈川県	高複合	理科	地震が起きたときには…	○冬季休業前の学部集会で扱った。 ○地震などの災害が起こった際の対応や留意点などについて理解を深め「自らのいのちを守る」ことの意識を高めた。 ・慌てない、頭部を守る、日ごろの避難訓練の復習等 ○学部共通の内容として、保土ヶ谷支援学校で毎月実施しているマンスリーショート訓練の内容と関連付けたことで、理解が深まった様子が見られた。	・パワーポイントを用いて視覚的に理解しやすいように提示した。 ・実際に動いたりすることで理解を深める内容とした。
5 神奈川県	高 1	理科	作物に必要な手入れと、成長の過程、作物の栄養と調理	畑を耕し、各自の手でサツマイモのつるを植え付けた。夏の暑さを乗り越え、サツマイモは成長し、収穫では、その重みを実感した。太陽の恵みを受けたサツマイモの栄養を確認する歌をみんなで歌い、調理を行い、完成した料理を様々な人と分け合い喜びを共有した。この活動を通じて、生命や生活の意味について考える貴重な機会となった。	

6	神奈川県	高 2	理科	命について	「こころと体」の授業として、男女交際や異性との距離感などを学習し、「命について」の授業を実施した。色々な動物の妊娠について生徒各自がクロームブックを使って調べ、妊娠期間や出生時の体重を人のそれと比べて、それぞれが感じた違いなどを授業の中で発表した。その後、人の妊娠、「受精とは」をクロームブックで調べ、「将来、結婚や子どもを持つことについて」の授業へとつなげた。	
7	神奈川県	中 1	理科	植物を育てよう	1 学期から続けてあさがおの栽培に取り組んだ。種まき、水やり、2 学期には花の鑑賞や雑草抜きなどに取り組み、3 学期は種を収穫した。その都度スライドで生長の様子を振り返り、植物を育てている意識づけをした。また、大根の栽培も行い、苗植えから水やり等の活動に取り組んだ。収穫した大根は家庭に持ち帰り、夕飯に家族で食べたなどの報告が連絡帳であった。	
8	神奈川県	中 1	理科	お米を育てよう	自然に親しみ、植物の成長に興味を持ってほしいと願い、身近な食材である米を題材とした。生徒たちは興味を持って意欲的に種植えや田植え、稲刈りに取り組んだ。成長の様子に興味を持ち、授業時間以外にも観察を続ける生徒もいた。また、変化に気付きやすくなるように、成長の様子を写真で振り返る機会を設けた。「芽が出てる」「大きくなった」「米ができてる」など生徒自身が発見し、報告する姿がみられた。稲刈りでは「稲を束ねて持つ人」と「稲を切る人」の役割を作り、友だちと協力して取り組んだ。収穫の喜びだけでなく、稲刈りの達成感を友だちと共有できた。	使用した米の種は、共生社会チームが地域の農家の方からいただいたもの。
9	神奈川県	小複合	理科	「メダカの観察」	入院生活の中でも生き物に触れることができるように、メダカの卵の観察コーナーを常設した。メダカの卵だけでなく、拡大読書器（電子顕微鏡の代用）、図鑑、教科書、学習動画の二次元コード、観察記録ノートを添えることで、多くの児童がメダカの誕生を楽しみに観察を続けた。卵の中で心臓が動く様子や生まれたばかりの稚魚の小ささに驚く姿がみられた。児童の興味を受け、メダカの誕生に関する授業も実施した。さらに、増えてきたメダカの稚魚と卵を「かもめ学級で生まれたメダカ」として学校内で譲る取り組みをおこない、他部門課程でもメダカを通じて生き物の誕生や成長を観察する活動が広がった。	参考：山形県天童市立天童中部小学校の実践例
10	神奈川県	小 3	理科	虫の観察	学校で捕まえたヤモリを教室でしばらく飼うことにした。『ヤモリ先生』と名前を付け、教室で小さい虫を見つけると「ヤモリ先生のエサ！捕まえて！」と言って、今までは怖がっていたクモにも積極的に近付いて行く姿が見られた。また、蚕を20匹ほどクラスで飼育した。何の葉を食べているか、食べている様子や音、大きくなっていく様を観察することができた。繭を作っていく過程も、繭から成虫の蛾が出てくるところも、興味深げに観察することができた。	